

ぶんきょうくしょうがいしやちいきじりつしえんきょうぎかい
文京区障害者地域自立支援協議会

れいわ ねんど だい かいしょうがいてうじしやぶかい ようてんきろく
令和4年度 第2回障害当事者部会 要点記録

【日時】 れいわ ねん がつ にち (きん) 10時～12時
令和4年10月7日 (金)

【場所】 ぶんきょう げいしやくせんたー3かい しょうがいしやかいかん
文京シビックセンター3階 障害者会館

【出席者】 たかやま なおき (じりつしえんきょうぎかい かいちょう)
高山 直樹 (自立支援協議会 会長)

しむら けんいち (じりつしえんきょうぎかい ふうかいちょう)
志村 健一 (自立支援協議会 副会長)

ちくま せいじ (ちてきしょうがい)
竹間 誠次 (知的障害)

こうの たかし (しんたいしょうがい)
河野 孝志 (身体障害)

ながの えいちろう (ちてきしょうがい)
永野 栄一郎 (知的障害)

いしい かずよ (はつたつしょうがい)
石井 和代 (発達障害)

なかやま まきみ (せいしんしょうがい)
中山 雅美 (精神障害)

はしもと じゅんいち (くいいん)
橋本 淳一 (区委員)

ひぐち まさる (じりつしえんきょうぎかい そうだんしえんせんもんぶかい ぶかいちょう)
樋口 勝 (自立支援協議会 相談支援専門部会 部会長)

あだち ゆうじ (じりつしえんきょうぎかい ちいきせいかつしえんせんもんぶかい ぶかいちょう)
安達 勇二 (自立支援協議会 地域生活支援専門部会 部会長)

【事務局】 みのぐち せき はやし おおた (ぶんきょうくしょうがいしやきかんそうだんしえん
美濃口、關、林、太田 (文京区障害者基幹相談支援センター)

【欠席者】 こにし けいち (しんたいしょうがい)
小西 慶一 (身体障害)

【補助人】 まつした こういち
松下 功一

すずき ひろき
鈴木 寛樹

【開会前に事務局からの連絡】

- ・ 出欠確認
- ・ 傍聴及び会議内容の公開について確認
- ・ 記録のため、会議内容の録音と写真撮影についての確認
- ・ 資料の確認

1. 開会挨拶

文京区障害福祉課 橋本課長より挨拶

第一回目の時は、顔合わせと民生委員との交流会で皆様から様々なお話をしていただき、民生委員さんからも色々な話を聞きすることができた。前回の会の後に、ある民生委員さんとお会いした時に「とても良かった、委員の皆さまからお話を聞いてよく理解できた」ととても喜んでいらした。前回のようリラックスして色々なことをお話いただければと思っている。どうぞよろしく願いいたします。

2. 部会長の互選

部会長は竹間委員に決定。

3. 議題

- (1) 令和4年度障害当事者部会の検討事項などについて

●事務局より説明

文京区に自立支援協議会が設置され既に十数年経っている状況で、数年前から協議会の高山会長と

志村副会長、関わってくださった皆様を含めて今後の協議会のあり方について色々相談をしてきた。

今年度から運営の仕方を少し変えた取組を始めている。(資料第1号-3の組織図をもとに以下説明)

前年度までは親会の下に五つの部会が並列で並んでいたが、今年度から各部会の上に障害当事者部会が

設置されている。これは各部会で話し合われて出てきた課題やまだ解決していない課題を一旦整理して

障害当事者の皆様のご意見を踏まえて親会に提出していこうと形を変えている。その上に運営会議が

設けられ、ここで協議会全体のあり方を検討する。(資料第1号-4をもとに以下説明) 障害当事者部会は

今年度三回実施で今日が第二回目。専門部会で話し合われ、運営会議で優先して話し合った方が良く

抽出された二つの課題、「切れ目のない支援」と「文京区における居住の問題」がとりあげられる。今日

は相談支援専門部会長と地域生活支援専門部会長に説明してもらい、皆様に事前に用意してもらった

意見聴取シートを元に経験からお話を聞かせていただきたい。

(2) 優先協議課題への意見付与

自立支援協議会志村副会長のインタビュー形式で進める。

●相談支援専門部会樋口部会長より課題について説明。(資料第2号-1)

私が部会長をしている相談支援専門部会は皆様が相談して解決していけるように、相談支援を充実さ

せていこう、相談しても解決できないことはなんで解決できないのか、どういうものを作れば解決してい

けるのかを話し合っている。安達さんが部会長をしている地域生活支援専門部会は文京区で生活するに

あたって、住まいや生活のしづらさがないか、急に困った時や一人暮らしの体験の整備を考えている。

自立支援協議会では色々な課題があるが、主に二つを話し合っていこうとなっている。一つ目は、障害者

への支援に切れ目があること。二つ目は、障害者の住まいが見つかりにくいこと。これらについてご意見をいただきたい。

●事前に準備した下記3点について各委員より発表。

①ライフストーリー（これまでの住まい、暮らしについて）

②住み替えや学校を卒業する等で生活が変わった時の思い出や困ったこと

・小学校では足が悪いけど「早く歩け」と先生から怒られた。高等部の時、「足が悪いから卒業しても行かれる会社がないよ」と先生から言われた。福祉センターの仕事は立ちっぱなしなので疲れてしまい、先輩によく注意された。

・学校卒業後、働いたらいじめにあった。

・保健師からアドバイスをもらいグループホームを紹介された。メンバーとの距離の取り方が難しかったが、自分で行動する力がついた。グループホーム卒業後、物件探しをしたがなかなか見つからなかった。

・子どもの頃から行く先々でいじめにあうのが困る。人との関わりを絶って繋がり切れ目をつくるために引越をしていた。

・文京区に引っ越してからはバスと電車を乗り継いでの通学になった。弱視から全盲になり、駅のホームから線路に転落した。平日は寄宿舎で生活をしていて、掃除や洗濯をするのが大変だった。特に5歳で敷き布団を片付けるのが一番大変だった。

③今の生活で困ること。また、将来どんな生活を送りたいですか。

・今まで母が生活に必要な物を買ってくれていたが、母がいなくなったらどこに何を売っているか

知らないから心配。

- ・一人で外に行けないこと。このままの生活を送りたい。
- ・一人暮らしなので病気の時など心配。将来は人とのつながりを深めていき、長く働きたい。
- ・自分の障害の内容、実態を体感する度、みじめな気持ちになる。安心、安全、安定な生活をする。
- ・視覚に障害があるため、読み、書き、歩きが困る。将来一人暮らしになったら生活面が不安。視覚障害者に特化したグループホームがあればいい。

●相談支援専門部会樋口部会長より委員への質問と委員より回答

①グループホームの話聞いた時、決まった時の気持ちはどうだったか。

- ・コミュニケーションが苦手だったのでどういう感じが分からなかったが、相談できる安心感があったし、保健師に勧められたので入居したいと思った。
- ・グループホームではなく、寄宿舍や住み込みで生活したことがあったが、何とかなった。過去に二カ月近く一人で暮らした時も何とかなったので、住み慣れた自分の家で住めるならば住みたい。
- ・自由に出かけられるのか、どんな世話人さんがいるのか、お金が払えるのか、通所先にバスで通えるのかという不安があった。

②いじめなどで辛い時に味方や相談できる人がいたか。相談しづらいことがあったか。

- ・味方がいたという実感や助けになったことは正直ない。当時は自己責任が共通認識で、いじめにあって悲しい、悔しい、助けて欲しいとか言えない圧力があり、自分で何とかしろと突き放す教師や大人が多かった。助けが必要なのは本人も周りもわかるのにお互い何もできない状態だった

当時はここまで情報が広がっていなかったし技術や知識も共通認識もなかったので、個人の力量に

頼られていたし、それを受け入れる器が社会にも人にも育っていなかったと思う。

●樋口部会長より追加の質問と委員より回答

①このままグループホームに住み続けたいのか。本当は一人暮らしをしたいと思っているのか。

・(グループホームに入居しているが本当は)家に帰りたい。

・世話人さんが足りなくなったら心配。一人で暮らすのは大変だから結婚しようかなと思った。

②グループホームを3年で卒業したが、可能であればずっと居たかったか。一人暮らしをして今は充実しているか。

・グループホームでは難しい問題も色々あったが、今はすごく良い思い出の方が多い。世話人さんにも相談に乗っていただいたりしたので戻りたいと思うこともある。半々の気持ち。

●地域生活支援専門部会安達部会長よりコメント

色々なご意見を聞いて勉強になった。支援者がいるような住まいでの生活の方が安心する時と世話人さんとの距離の問題から、いない方がホッとするような時もあるのかなと思って聞いていた。また、人間関係で疲れてしまって一人で周りを気にすることなく生活を続けたいという方もいらっしゃると思った。色々な立場のご意見を聞いてとても勉強になった。ありがとうございました。

4. 閉会挨拶

自立支援協議会 高山会長より挨拶

今日は皆様に生活や人生を赤裸々に語っていただけたことを感謝します。個人情報、プライバシーを

提供していただいて、ここから考えないといけないと改めて思う。皆様が生活のしづらさというものに直面しているのが障害で、そのしづらさというのは個人レベルでたくさんある。今日出てきたのは、いじめの問題、物理的なバリアの問題、一人暮らしの不安という問題があると分かった。支援者との出会いによって安心感を得て、次のステップに行けるということもある。

住まいの選択肢にグループホームか入所施設しかない。ここをどうするかが居住問題。文京区はグループホームが全く足りない。量的に大きな問題。もう一つは、グループホームはその地域で生活をしている、あるいは文京区民として生活しているということがすごく大切。制度ではなく、運用的なものをどう作っていくのかということが大事ではないか。居住のことをグループホームだけではなく、色んな形で考えていかないと難しい問題がある。これは障害福祉の問題だけではないので訴えていかないとけない。当事者部会が訴えていくルートというのは親会にもあるが、区、区の色んな協議会、区の政策に対して訴える運動を一緒にやっていく。協議会でもっと皆さんの声を吸い上げて訴えていく、そういうひとつの母体になっていくということを今日感じた。

組織図で専門部会の上に当事者部会がある、これは画期的なこと。当事者部会が要になる。もう一つ、地域の団体や障害当事者と繋がっていくルート。生活のしづらさを集めて発信して一緒に作り上げていくようなうねりを作っていく。これが組織図になったと思っている。今日はありがとうございました。

5. その他連絡事項

事務局：次回部会の日程は決まり次第連絡。